

中心となる指導事項を「読むこと」の工、物語文の精査・解釈に設定し、実践しました。

3・4年の「精査・解釈」の指導事項は「登場人物の気持ちや性格、情景などについて、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像すること」です。

この指導事項を踏まえて、単元を貫く言語活動として、「登場人物の
ゾーンとするところと理由について、マイエモーショナルカードで紹介し
よう！」を設定しました。

〈マイエモーショナルカード〉

My エモーショナルカード

～えもいわれぬ新美南吉作品～

年 組 氏 名 ()

あらすじは指導事項のイ（構造と内容の把握）に当たりますが、大まかに物語の内容を理解しておくことで、その後の活動にいかせると考え、初めにあらすじを書く欄をつくりました。

ジーンときたところも一人一人違うので、自分で書かせるようにしました。登場人物に関係するところで選ぶことができるよう声を掛けました。

ジーンときた理由を伝えるためには、
 ジーンとするとところまでの出来事などを
 的確にとらえる必要があり、その際に複
 数の叙述を結びつけることになる。その
 活動が場面の移り変わり結びつけて想
 象することの中心となる。

単元の流れ

①単元の学習の流れを確認する。

カードの完成例を提示し、ゴールのイメージをもたせる。

②「ごんぎつね」のあらすじを書く。

全文シートに線を引きながら、ペア交流をし、あらすじをスラスラ言えるようになってからカードのあらすじ部分を記入する。

③「ごんぎつね」のジーンとしたところを書く。

拡大全文シートに自分がジーンとしたところに付箋をはり、自分と同じところを選んだ人やちがうところを選んだ人をわかるようにし、交流相手を選ぶ際に参考にさせるようにした。ペアを変えながら交流し、ジーンとしたところが決まった児童からカードの記入を始めた。

④「ごんぎつね」のジーンとしたところの理由を書く。

ジーンとしたところとその理由になる叙述を全文シートで線を結びながら話し、交流をする。

⑤⑥⑦選んだ新美南吉作品のカードを書く。

並行読書教材として、新美南吉作品の5作品を読めるようにし、その中から特に
 ジーンとした作品を選んで、カードにまとめるようにした。

マトリックス表で自分と同じ本を選んでいる人や同じ本を読んでいる人がわかるようにしておき、交流相手を選べるようにした。

活動の内容は「ごんぎつね」と同じようにすることで、「ごんぎつね」を読む際に使った読み方をいかせるようにした。

成果○と課題●

○書く内容についてはっきり決まるまで、相手をかえながら繰り返し交流をすることで、自信をもってカードに書くことができていた。

●自信がつくまでペア交流をするものの、話す内容が変わらず、自分の発表をすることがペア交流の中心にあり、話し合いで内容が変わったり深まったりする様子はあまり見られなかった。

→聞き手の反応例を示すことで提示し、対話によって内容が発展するようにする。